

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の 特徴	H24年5月に開設。1階に小規模、サテライト型特養、地域交流スペース、キッズルームが併設されている。地域の方も気軽に利用できるスペースがあり、フリーカフェを行なっている。地域の中の施設としての特性を活かせるよう、利用者の想い、希望、ご家族や多職種との連携を図りながら、生活が継続できるように取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能型居宅介護川崎	管理者	丸山 有子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	1人	4人	0人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●個別のモニタリングで評価する際に、利用者の「～したい」の目標に対し、日々の関わりを振り返り、目標達成を目指した関わりが出来る様にしていく。 ●本人にとって必要だと思われる地域資源について、家族との関係性を密にしながら、情報収集及び把握に努め支援における活用を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●～したいの目標を把握し、そのためには、何が必要なのかどうしたら良いのか会議で検討し職員全員が統一した考えで目標実現に向かってケアできるように努めた。 ●家族からの聞き取りで小規模利用前に使っていた地域資源や地域との繋がりが継続出来る様に配慮した。(例 床屋さんが自宅に来てくれるか。) 	<ul style="list-style-type: none"> ●連絡帳が○をつけるだけでも済むような書式であると、後で見直す時にわかりが良い。 ●センターとのやり取りの際、メール等記録の残る連絡方法で出来ると良い。 ●「検討する・企画する」とあるが、改善計画にせまるために、「どんな場面でのどのような方法で行なうのか」より具体的に焦点化して改善計画に結び付けるべき。その後の評価もしやすい。 ●事業所評価のチェック項目が実際に小規模が力を入れている部分に合っていない様に感じる。 ●「あまりできていない」「ほとんどできていない」の人数が多い項目がある。その理由も漠然としており、具体的な理由がみえない。具体的な理由が明確になれば、改善計画もより具体的され改善に結びつきやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前訪問に行く際は、ケアマネジャーの他にケアワーカーまたは、看護師が訪問し多職種の観点から情報を得る。 ●通常業務の中で利用者、家族の意見を聞き、サービスの質の向上につなげる。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●ウェルカムボードを設置するなどして、サポートセンターに入りやすくするための案内を掲示する。 ●定期的に町内の班長会議に出席し、毎月のサポートセンターの行事などを周知することで、地域交流スペースが活用出来る事を知ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ウェルカムボードを設置するなどして、サポートセンターに入りやすくするための案内を掲示する。 ●大型公用車の駐車位置を変更し、正面玄関が道路から見えやすいようにした。 ●定期的に町内の班長会議に出席することは、出来なかった。回覧板を通じて毎月のサポートセンターの行事を案内し、地域交流スペースが活用出来る事を知ってもらうようにした。また、回覧板を回す地域を広げ、来訪者が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●入りやすい工夫だけでなく、防犯・不審者対策も必要になってくるのではないかと。 ●センター名が英語表記だとわかりにくいのではないかと。 ●市役所もわかりやすい表記を設置する提案もあったが、今は「人」で案内をしている。 ●川崎6丁目町内だけでなく、川崎地域とどうかわっていくのか。 ●大きな看板を設置しないのは、「施設」という考えではなく地域の中にある「家」という思いから現在のスタイルになっている。看板ではなく人で案内・声掛けしていくことも防犯対策につながっていくのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ●サポートセンターが分かりづらく、入りにくい為、行事や「まちのね」の活動の際に、センターの説明会を行ない必要時はパンフレットをお渡しする。 ●センターに来所された方に職員が、積極的に声を掛ける事で人の出入りの把握に努める。 ●班長会議出席に替えて、広範囲の方に周知できる回覧板を活用する。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域交流スペースを使用して、講習会の定期的な実施。 ●地域行事に併せてサポートセンター川崎でも同等な行事を開催し地域へ周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期的に隔月で地域交流スペースでの行事を行なった。 ●回覧板を回す範囲を広くし、行事の参加を呼びかけ、参加人数が増えてきている。 ●コミセンの文化祭翌日にセンターの祭を行ない、クラブの作品をお借りして展示した。 ●町内の神社祭り、川崎コミセン祭り、町内防災訓練に参加し地域との関わりが出来るように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●建物があるのはわかるが、何をしているところなのかわからない人があると思う。 ●すぐには入りづらい人もいるため、建物に入らなくても手に取れる場所にパンフレット等があると良いのでは。 ●同居していない遠方の子供世代まで知ってもらう必要もあるのではないかと。インターネット等調べる方法はあるが、小規模多機能型住宅介護サービス自体を知らないのとどりに着けないのでは。 ●6丁目の町内の一部の方は知っているだろうが、他の町内の方はどれほど事業所の存在や機能を理解しているのかは疑問である。PRの方法を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域交流スペースを使用した「まちなね」や講習会を、定期的(隔月)に実施し継続していく。 ●「まちなね」行事・イベントの終わりに今後予定している(一か月程度)行事等の案内を、口頭またはパンフレットでお伝えし次回も来て頂けるようにする。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●安全を確保した上で、外出の機会を出来るだけ多く設けていく。 ●地域の祭りや学校の行事等に参加出来る様な関係性を作り、地域の方と利用者が関わる環境を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●春秋のドライブ、個別の買い物、天気の良い日は近所を散歩するなど外出の機会を取ることが出来た。 ●川崎コミセンの祭りに参加できたが、他の行事に参加することが出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターの周りを車椅子を押している姿も良く見かけたので外に出ており閉じ込めている感じはしない。 ●自宅に住んでいてもなかなか地域の行事やイベントには参加できないのが現状。 ●このテーマについて、小規模事業所の職員だけで普段の業務の他に取組むのは大変なのではないか。 ●小規模事業所の職員だけでは難しいところもあるが、地域の方から支えて頂ける・一緒に取り組んでいただけるような仕組み作り・かかわり作りが必要であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミセン行事や学校の運動会、文化祭に利用者をお連れする。 ●安全を確保した上で、季節に合わせて外出、散歩、日光浴の機会を多く設ける。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域との関係性や協力体制を作り地域の課題等の情報収集・共有出来る話し合いの場を設けていく。 ●ご利用者の住んでいる地域の実情を知り、インフォーマルな方達との連携を強化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議では地域で心配な方の話は出たが、事例検討までは行かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議は毎回報告に終始している。運営推進会議の役割が何なのか、疑問である。 ●運営推進会議のメンバーは専門性が不十分ではないか。事例検討にどれだけかかわることができるのか。 ●事業所利用者の個々の報告よりも、事業所の課題等について意見を聴く場ではないか。 ●実際に事例検討は行われなかった。 ●毎回報告のみで運営に関する議題がない。 ●運営推進会議の内容についても今後工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●多職種との連携を図る為、近隣の総合病院に声を掛け、運営推進委員になって頂けるように働きかける。 ●包括センターや地域の方々に、情報を頂きながら、地域での取り組みや困っている方についての話し合いを行う。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>●防災訓練実施時には地域の協力を依頼できる体制を作る。また、地域の自主防災会の活動に併せて協力できる活動を検討し実施する。</p>	<p>●火災自動通達装置に町内会長と自主防災会長の電話を登録し地域の方に協力を依頼できる体制を作った。 ●6/18川崎合同防災訓練に参加し、炊き出しと防災教室で防災について学ぶことが出来た。 ●11/24川崎の防災訓練を行い1名の方から参加して頂いた。</p>	<p>●事業所の防災訓練に参加したかしないかで、推進委員の自分たちが評価されるのか。 ●介護の必要な方々に福祉避難所としてサポートセンター川崎が利用できることを町内会議で話し、みんなに知ってもらう様になります。</p>	<p>●運営推進会議に合わせて防災訓練を実施する。 ●川崎合同防災訓練に継続して参加し、地域の防災に関わっていく。</p>
----------------------------	--	--	---	---